

月刊 利根日石新聞 第000179号

発行 利根日石株式会社 TEL 0278-24-1635  
本社販売管理課 FAX 0278-23-7980

2009年11月1日創刊 令和6年8月号

8月

知ってる? 豆知識

よく使われる  
「勝負服」  
とは、馬騎手が着る服  
からきているんですよ

茨川矢の頭店 星野です。一昨年の夏から産休に入らせて頂き、今は1才の息子のお母さんとして復帰しました!! ねの利根日石新聞はお馬さんの子育てについて書きます。皆さん生き物の子育てってみんな同じだと思いませんか? 実は馬も人間と同じで、お母さんによって色々な子育て方針があります。例えば、競走馬として活躍した、シエンティルドナッパ甘やかすウオッカ放任主義だったり、スパートウシヨウは溺愛しすぎて子供に近づく馬や人間を攻撃したり... 私もお母さんの子育てで、毎日てんやわんやですが、楽しく子育てもできています(笑)

きびしい暑さの中夏ばや 体長不良になっておられないでしょうか。プールや海水浴、川遊びをしても 十分な水分補給が、必要不可欠ですよ。水の惑星と表現される私たちの地球は大量の水を有しています。でもそのほとんどが海水で私たちが直接飲む事が出来る水は、1%程度もないんです。水道水もそのままだと飲める国は日本を含め世界で10か国程度のことです。水資源に恵まれて水道設備が整っている日本は、良質でおいしい水がすぐ手に入る事ができて、その為水の恩恵を意識せずに洗濯、炊事、お風呂へ入ることが出来るので何も考えず毎日を送ることができているので、ありがた身をお忘れですよ。地震の被災地の后々を思えば、節水はもちろん、お水を大切に生活しなければなりません。  
歯をみがく時は水を流してはダメ!!

私たちの体の約6~8割が水分で水は地球上に存在する無数の生物に大切な物質です。水は多くの物質を溶かすことができる為化学反応を行なう土台ともなっているのです。地球上の資源もお水次の世代へつなぐ為大切にしたいです。

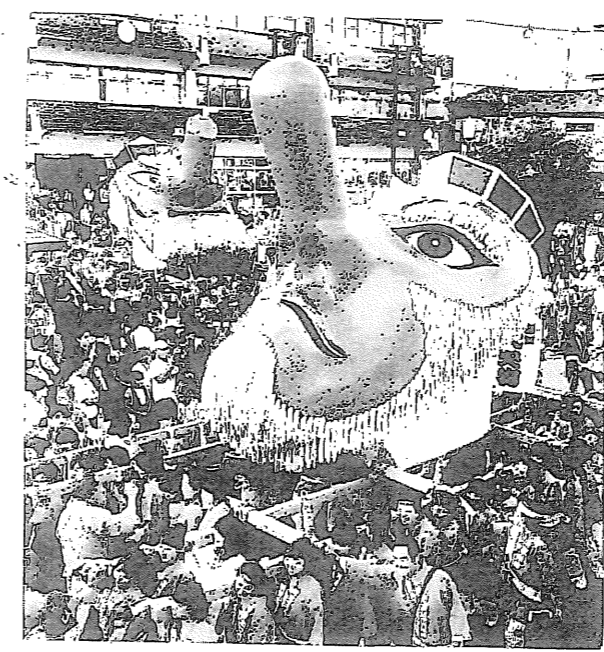
# 沼田まつりについて思うこと

今年も早いもので半分以上が過ぎ、はや8月。沼田で8月といえば「沼田まつり」です。皆さんもご存知のとおり、沼田まつりは江戸時代も起源とする歴史ある祭事で、毎年20万人が訪れる名実ともに沼田で最大のビッグイベントです。山車は各町から10基、神輿は神社から2基、町神輿18、さらに天狗神輿や子ども神輿など全部で30基以上が町内を練り歩きます。他にも流し踊りの「4人踊り」などがあります。

この山車や神輿では子どもも活躍します。子ども神輿はもちろん、山車のお囃子は小学生~中学生が担っています。また、祭りの華である天狗神輿を先導する山車太鼓では小学校高学年~20代前半が勇壮な太鼓を披露し、その太鼓に合わせて踊る「舞華」も同じく小学校高学年~20代くらいの女生で構成されています。このように随所で活躍する子ども達です。お祭り本番に向けて殆どの子どもが約2ヶ月の稽古を積んでいきます。7月に入り、各町のお囃子の練習が佳境を迎えてくると、夏本番の訪れを感じます。

こうした稽古では殆どの場合、指導役の大人が教えます。そしてその殆どの場合が親以外の大人です。こうした親以外の大人との関わり合いが特にここ最近(数年)では大事なのではないかと感じています。昔のような近所づきあいが薄れ、子どもの減少によって育成会事業が縮小傾向にある昨今、親以外の大人と関わる機会が減る一方です。塾の先生や、スポーツクラブの監督・コーチ等もいます。こうしたいわゆる専門職の人たちは職業として子どもに接する事が多いです。

一方で、お祭りのお囃子や、踊りを教える大人たちは大抵、地元のおじさんおばさん(お姉さんお兄さんもいる)で、多くがボランティアです。好きでやっているので、また、そこにはマニュアルやコンプライアンスが無いからこそ、その子ならではの接し方や教え方があるでしょうし、時には家族のこじや、反逆の話なども出てくる事があるでしょう。普段、近所にいるのは何となく知っているけれど、中々直接話す機会のない、こういう大人たちとの触れ合いが子ども達にとって刺激になり、そしてお祭り当日の熱気を一緒に体験することで、その後も忘れ難い記憶として、一人ひとりの脳裏に焼き付くのではないのでしょうか。



普段、仕事ばかりしている大人たちと一緒に、山車を引いたり、神輿を担いだりする体験は子ども達にとって、大人が思っている以上に特別な体験になっていると思います。そんな特別な体験を子ども時代にしているからこそ大人になって、沼田から離れた人々も毎年、沼田まつりには戻って来る人が多い所だと思います。

今年も子ども達にとって、楽しく、思い出に残る機会となる沼田まつりになるよう期待しています。